

議事要旨(4) 金融商品専門委員会における検討状況について

冒頭、加藤常勤委員（専門委員長）より、審議事項(4)-1に基づき、公正価値測定及びその開示に関するプロジェクトの状況及びスケジュールについて説明がなされ、嶋田専門研究員より論点整理に対するコメント概要及び対応案について説明がなされた。説明の後、委員からの発言及び事務局からの説明は以下のようなものであった。

- ・ ある委員から、開示に関して、IASBの公開草案は作成者にとって米国基準より負担が重いため、慎重に検討すべきとの意見があり、また別の委員からも、実務負担を勘案する必要があるとの意見があった。これに対して事務局からは、IASBに対しては、予定されているラウンドテーブル等で意見発信していきたい、また日本基準については、実務面も勘案しつつ今後検討したいとの回答がなされた。
- ・ 別の委員から、初日の損益の取扱いについての質問があり、事務局からは、個別の会計基準で取り扱うべき論点のため公正価値測定では取り扱わないが、例えば、金融商品会計については現在見直し中であり、その中で十分検討していきたいとの回答がなされた。
- ・ また、別の委員からは、今回のコメントに対して、財務諸表の利用者からの意見がないので、今後情報収集を行った上で、プロジェクトを進めて欲しいとの意見が出された。

以 上